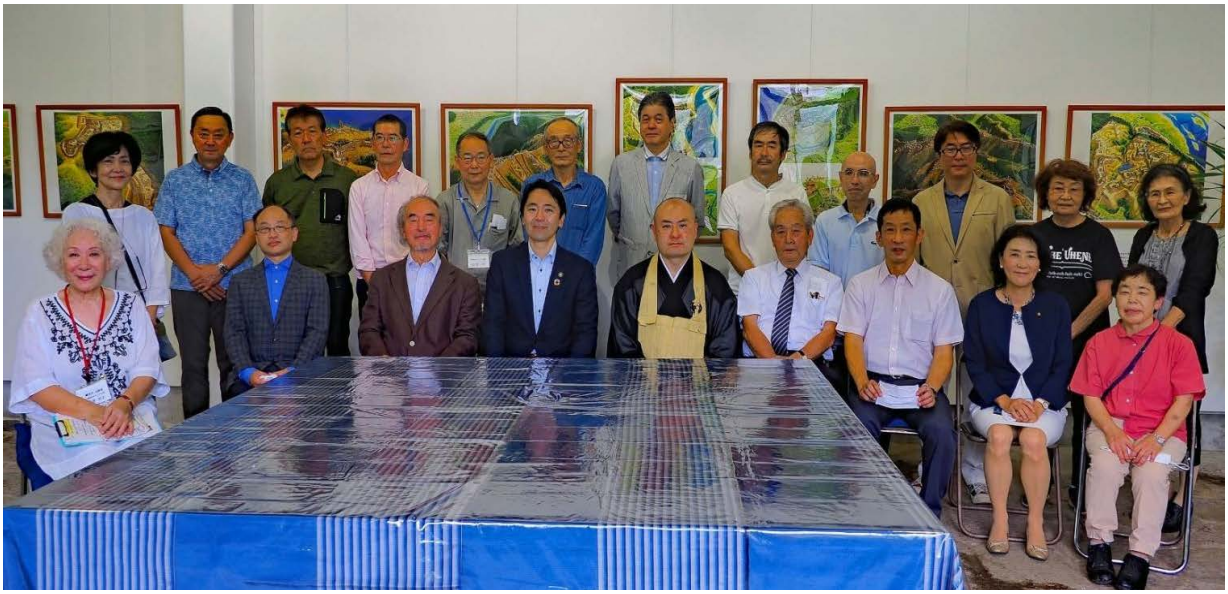
玉縄城まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 ☎ 0467-45-7411 〒247-0073 鎌倉市植木425-16
E-mail artbank21@nifty.com URL https://tamanawajo.jp

もう一つの鎌倉へ前進

玉縄城址まちづくり会議



当会は設立15年目を迎えました。コロナ禍後にも、あらたな活動をめざして前進します。

◆玉縄ふるさと館を龍寶寺のご好意と会員の力で拡充して、昨年八月一日、「玉縄歴史館」としました。重文古民家と歴史資料館は鎌倉の博物館の重要なサテライト拠点になります。市長を迎えギャラリーを開場、香川元太郎「日本の城展」、現在は、当会提案、鎌倉市主催、鎌倉歴史文化交流館の企画展「戦国時代の鎌倉」を移し、当会企画分も加え展示しています。

◆文化庁補助事業玉縄城址歴史ミュウジアム活用事業は、「戦国時代の鎌倉、その検証と発見」「東西戦国文化の比較論」など3年間17回のセミナーを実施して成果を上げました。

次世代人材育成では、市民学芸員育成講座の修了生20人ほどがそのまま活動に参加し、展示やセミナー運営、社会科体験学習に取組み、地域コミュニティの新しい力になっています。

◆昔のくらし体験学習によって、一万人の小学生を送り出しました。制作した『かまくら玉縄のむかしのはなし』は大好評で副教材として小学校の教室で活用されています。

◆これらに対して、令和2年度「鎌倉市市政功労賞」を受けました。

◆ボランティアが地域を活性化させる―この信念は当会の原動力です。当会は七曲坂、市民緑地、本丸内遺構の保全を続けています。環境インストラクター講座へ関心も高まり、今年は学生ボランティア対象の遺構整備活動も積極的に進めます。城址と歴史館のサプライズ活用として「玉縄城四つの館」模型制作、「フクロウの巣箱掛け」を進めます。11月、これらと絵画と音楽パフォーマンスを組み合わせた鎌倉芸術祭参加を構想。

◆今後、当会が全力で取組むのは産官学民の「協働事業」です。湘南工科大学と協働して玉縄城址の魅力をアッピールするAR拡張現実の制作。産官学民との協働がどれほど生き生きした地域コミュニティを形成するか証明したいと思います。

◆鎌倉市が方針を決めた玉縄城跡史跡指定―当会はその早期実現に協力して、史跡の歴史的意義を見極める連続セミナーなどを積極的に行います。

◆玉縄城址まちづくり会議は、玉縄城址を守り、学び、伝える活動を続けます。「玉縄城址歴史トレイル」は当会がお奨めしたい、もう一つの鎌倉の歴史拠点です。その出発点である玉縄歴史館にて出来る限りご案内しています。　（会長　荒井章）

文化庁

平成30年、令和元年、2年文化芸術振興費補助金
「鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュウジアム事業」連続歴史セミナー

八幡

◆連続セミナー3年目の収穫
戦国時代の鎌倉、その検証と発見

鎌倉市文化財部桝渕則彰部長から戦国鎌倉の玉縄城とその史跡指定の方針が話されました。

【戦国時代の鎌倉の歴史】鎌倉国宝館阿部能久講師は、鎌倉府の終焉と戦国期の活況を話しました。

【武家の文化活動と町衆】伊藤一美講師は、戦国期鎌倉の文化的背景、民衆の動き、玉縄城主と鎌倉の人々の生きざまを語りました。

大竹正芳講師は、城郭史学会で発表した「相州玉縄城実測」を発表。9月15.日、きらら鎌倉に伊東潤、諏訪間順氏を迎え、3人の地元学者と共に小田原本城と玉縄城の様々な違いを語り合い、150名の市民に「鎌倉鎮護の城・玉縄城」を充分に学んで頂きました。

陣屋の下から現れた「池状遺構」

枯山水の池の様相と館の柱穴

【戦国の藤沢と玉縄城域】

藤沢市学芸員の宇都洋平講師は、藤沢市の村岡地域、二伝寺、御幣山地域の玉縄城関連発掘調査を報告。共同研究に期待をかけました。

【戦国時代の寺社の記録】

玉林美男講師は鶴岡八幡宮、荏柄天神、大功寺石碑から戦国期を検証。伊藤一美氏も加わり、鎌倉の都市計画を考察しました。

◆連続セミナー4年目の成果

本丸南側の池状遺構（城主の館）の報告がなされました。会所と思われる建物の柱穴、井戸、上水用の木の樋、分水枡、本丸へ向う杉並木。右手の山稜部からは付属施設と考えられる小石が敷かれた竈が復数、揃いの皿も出土。東西2カ所の発掘調査を合わせ「城主の館」の存在がはっきりしてきました。

香川元太郎画伯描く玉縄城鳥瞰図

【文献から証明する玉縄城正史】

講演：黒田基樹　玉縄城に頻繁に滞在した小田原城当主の文書類から推定。本丸は当主の館であり、当主は玉縄城に滞在して鶴岡八幡宮や出陣に向ったこと。また都や駿河の賓客を迎える館の存在、玉縄城主の館の存在を推定。玉縄城跡発掘調査報告の映像により、それを実証できたと明言されました。

◆連続セミナー5年目の収穫

新装のギャラリーで「日本の城」のイラストに囲まれ、講演会。

「戦国の城の謎」香川元太郎氏

「玉縄城の不思議」大竹正芳氏

10月には「後北条氏と一門衆を支えた女性たち」を浅倉直美氏が研究発表、玉縄城主綱成と氏繁夫人の出自と氏繁の息子、氏舜、氏勝兄弟の「嫡男問題」にも結論が出されました。

◆文化庁事業5年間の成果
基調講演「戦国武将比較論を語る」

小和田哲男(静岡大学名誉教授)

一、光の当て方で変わる人物像、東の代表、北条早雲（伊勢宗瑞）は梟雄から脱却。西の代表、明智光秀（惟任光秀）は謀反人から脱却。

二、戦国大名北条氏の「国家」と豊臣秀吉の天下統一。後北条氏＝関八州分権国家、豊臣氏＝中央集権国家。

「戦国東西文化比較論」

五人のパネラーが8年ぶりに一堂に会し、戦国時代の畿内と東国の「武将、文化、城郭、人の営み」の違いを語る。

「畿内は銀」、「東国は米」が給料として流通していたと小和田氏。鎌倉では「銅貨の流通」が続いていたと伊藤パネラー。発掘調査現場でも銅銭が頻繁に出ると考古学の玉林パネラーも証言。活発な意見交換が続きました。

8 年ぶりに玉縄で講演。戦国武将比較論を語る小和田哲男講師

文化庁

令和元年、２年度　文化芸術振興費補助金
「鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュウジアム事業」人材育成事業の成果と今後の活動

八幡

地域史を学び次世代へつなぐ
「玉縄歴史館市民学芸員育成講座」

８年前、県歴史博物館の協力を受けて開始した市民学芸員育成講座は、６年で15人のメンバーが育ち、小学生の体験学習参加校は16校に増え、「昔の暮らしの体験学習は玉縄」が定番の声になりました。

令和元年、市教育センターと協働で副教材「かまくら玉縄のむかしのはなし」を発刊。２千６百冊は市内すべての小・中学校に配布され、DVDはコロナ禍のなか、教室で有効に使われています。

今年の体験学習は、玉縄歴史館に歩いて来ることが条件。６校500人は、副教材を活かし学校内で予習を済ませ、民具にまっしぐら。歴史館学芸員に質問を浴びせ、民具に触れて、昔の暮しを体験しました。茅葺きの重文古民家では、潜り戸を入ると薄暗い昔の世界。土間、天井のカヤ、曲がった太い松の梁、土壁の匂い、板の間の質感。今の家と古民家の構造の違いを体感し、昔の暮らしに思いを馳せました。

◆昨年から名称を変えた「市民学芸員育成のための実践的講座」は内容もスキルアップ、次世代男性も数多く参加しました。中世玉縄の石塔調べ、城址遺構の測量調査、国指定重要文化財「旧石井邸」の茅葺き屋根の経年破損調査を横浜国大教授で鎌倉市文化財専門委員に学びました。「東証院遺跡」出土の５千年前の精巧な器にも触れ、誰もが感銘を受けたようです。

本物に触れて学ぶことの楽しさ、それを専門の先生の指導もと、玉縄歴史館で体験できるのです。

◆歴史館学芸員の活動分担

本年４月から、古民家の節句飾り設えや民具の補修と展示工夫の「管理・運営チーム」、講座の企画、運営の「講座チーム」、映像制作、ギャラリー展示、模型づくりなどの「モノづくりチーム」に分かれて、活動を開始しました。大型TVなど視聴覚機材は、大成建設自然・歴史環境基金から助成を受けて整えました。

◆玉縄城のあたらしい位置づけ

教育委員会文化財課との協働により、玉縄城跡発掘調査報告書と写真を参考に、現場を踏査しながら遺構状態を検証します。本丸東側の残された遺構群のうち玉縄城独特の遺構は何処と何処なのか、数年後の史跡指定に協力して進める準備でもあります。

（文化委員長　荒井幸子）

◆次世代と一緒に進めたいこと

玉縄城址と玉縄歴史館で学んだ小・中学生は10年間で一万人です。「中学生・高校生になった皆さん、この秋から始まる『玉縄城址にフクロウを呼び戻そうプロジェクト』に参加しませんか」夕暮れから夜中に「ホ、ホー」と鳴く、あのふくろうの巣箱作りと巣箱掛けの作業です。城址の自然を守る活動でもあります。ぜひご参加ください。

◆モノづくりオープン講座は玉縄歴史館で毎週木曜９時半開始です。

７月「玉縄城４つの館」模型作り
８月「東証院出土の土偶作り」
９月「中世鎌倉の石塔調査・研究記録映像制作・ギャラリー展」
10月「フクロウの巣箱作り」
11月「玉縄城４つの館」模型作り

お問い合わせの上ご参加ください。

先生方にも好評な副教材を発刊

350年前の古民家外観を説明

重文古民家の雛の設え

縄文の鉢は軽くて艶やか

学芸員が企画展示する「玉縄城遺構調査展」「日本の城展」「戦国時代の鎌倉、その検証と発見展」、秋には「中世鎌倉の石塔展」を準備中

七曲坂アダプトと市民緑地の月例の美化奉仕は、これまでもこれからも当会の活動の基本です。

15年前の七曲坂は草木が生い茂っていましたが、当会が整備してきれいな道と緑地に変身しました。そこでは、「れきしと自然の学校」が開かれ、三つの小学校の生徒が参加しました。

当会では、次世代育成を視野に、小学生の「玉縄城址子ども探検隊」と中学生の緑地ボランティア体験の指導も行っています。小学生は初めての場所の探検に張り切り、中学生は初めイヤそうでも慣れてくるとやたら元気になってきます。

清泉女学院内にある広大な密林状態の茂みを開いて蹴鞠場を再現し、蹴鞠体験をしました。これは、城址史跡という文化財の有効活用にもなります。

「環境インストラクター育成講座」は、かながわトラストみどり財団の助成でスタートしました。二年目からはイオン環境財団の助成事業となり、三年目の今年は回数も十回に増やし、城址中心部の活動に力を入れます。台風で倒れた大木を手作業で片付けたり、外来植物のカミヤツデを駆除したり、蹴鞠場の刈払いなど、環境インストラクター育成講座は貴重な体験が満載です。（松田　明）

【玉縄城址の野草】

（ササバギンラン）

市民緑地下の煙硝蔵址の階段脇で見付けた「ササバギンラン」です。2年前にも同じ階段の反対側で1本見つけて、来年も純白で清楚な姿を見せてくれるものと期待しましたが、2年間姿を見せてくれませんでした。4月26日に荒井会長と階段を下りている時に、足元にササバギンラン（ギンランより葉が細い）が2本あるのに気付き、嬉しくなって写した一枚です。（増川勇次郎）

【行ってみたいもう一つの鎌倉】

玉縄城歴史トレイルの散策には、龍寶寺玉縄歴史館にお立ち寄りください。あたらしい鎌倉の魅力を発見できます。玉縄城域模型や歴史資料を展示し、探索に役立つ「玉縄城址マップ」も配布しています。

開館時間：9時半～15時半

入館料：大人200円：子供100円

玉縄城歴史トレイルルート

大船駅西口→大船観音寺→玉縄首塚→大船フラワーセンター→龍寶寺・玉縄歴史館→七曲殿館跡→七曲坂→市民緑地（太鼓櫓跡）→玉縄城大手門跡→玉縄城址の碑→陣屋坂下る→池状遺構（玉縄城主の館跡）→植木バス停

【七曲坂と市民緑地の美化清掃】

〈作業日〉七曲坂：毎月第四土曜日
市民緑地：〃第三土曜日

〈時間〉午前九時～十一時

どなたでもご参加ください。

用具は用意しています。

0467・45・7411